

町田市観光まちづくり基本方針 (素案)

2017 年〇月

町田市

はじめに

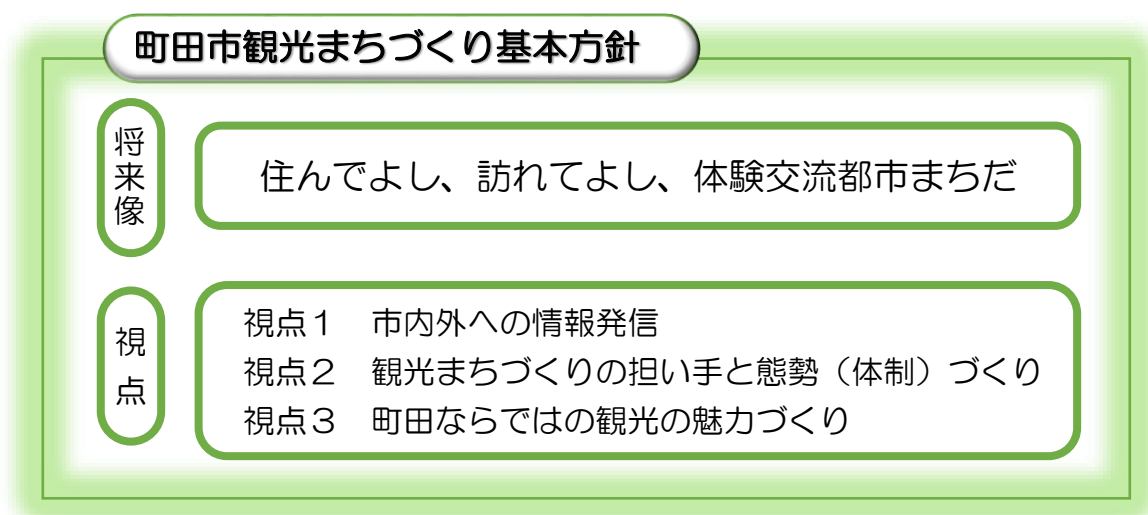


町田市観光まちづくり基本方針の概要

町田市では、市民が主体となって、地域が持つ歴史、自然、文化などの観光資源を磨き、活用し、町田ならではの体験を来訪者に提供する、観光とまちづくりを両面から進める「観光まちづくり」を目指します。

この「観光まちづくり」を進めることにより、経済活性化、地域活性化を図り、地域住民にとっては住み続けたいような、来訪者にとっては何度も訪れたいようなまちを実現します。

「町田市観光まちづくり基本方針」は、計画期間を2017年度から2030年度までとし、計画期間中に実現を目指す「将来像」と、その実現を図るために必要となる視点とで構成します。



1. なぜ町田市で「観光」なのか

近年「観光」に対するニーズが、「名所や旧跡を巡る物見遊山の旅行」から「その地域ならではの観光資源や体験を楽しむ旅行」へ変化してきています。

こうした流れを受け、町田市では地域の資源を活かし、町田さくらまつりや町田時代祭りをはじめとする観光イベントの開催、シティセールス活動、小野路宿里山交流館の整備などに取り組んできました。

また、2009年には町田市の観光振興の中心的な役割を担う組織として、町田市観光コンベンション協会を設立し、観光ホームページやマップ等での情報発信、観光案内所「町田ツアーリストギャラリー」の開設、まちだ観光案内人の養成、ガイドウォークツアーや体験ツアーの実施など様々な取り組みを行ってきました。

このような取り組みを進める中、国においては、「観光」を成長戦略と地方創生の大きな柱と捉え、積極的に推し進めようとしています。

また、町田市を取り巻く社会環境においても、次の二つの変化が起きつつあります。

- 人口及び生産年齢人口減少時代の到来

これまで順調に伸びていた人口が、2020年を境に減少し、あわせて生産年齢人口も減少することが予想され、地域活力の低下が懸念される。

一方で、生産年齢人口の減少は、地域で活躍できる世代が増えるというプラス面も見込まれる。

（資料出典：まちだニューパラダイム（2015年3月 町田市未来づくり研究所発行））

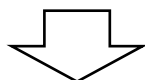
- 強みだった商業にもかげり

これまで商都として発展してきたが、周辺都市への大型商業施設の新設、モノ離れやネット購入といった生活者の消費行動の変化等により、市内の小売業の売り上げは〇年前と比べ減少している。

（資料出典：〇〇）

これらの社会環境の変化を機会と捉え、今後も、町田市が魅力を持ち続け、多くの人を引き付けるまちであり続けるために、これまで以上に「観光」に取り組んでいく必要があります。

「観光」の取り組みを進めることで、来訪者*を増やし市内で観光を楽しんでもらうことによって市内での消費額の増加を目指すとともに、来訪者と地域住民が交流することにより、地域の活性化を目指します。



「観光」を切り口として、経済活性化、地域活性化を目指す

***来訪者**

市内外から地域を訪れる地域住民以外の人

2. 町田市の「観光」を取り巻く現状

町田市の「観光」を取り巻く現状として、以下のものが挙げられます。

- 市内外の多くの人に、町田市は「ショッピングに便利な街」というイメージは持たれているが、「観光を楽しめるまち」というイメージはあまり持たれていない
(資料出典：町田市観光資源調査報告書(2008年2月 町田商工会議所発行))
- 市内には多くの観光資源があるが、市民が観光を目的として市内の観光資源をあまり訪れていない
(資料出典：町田市基本計画検討市民モニター実施報告(2012年3月策定))
- 箱根、鎌倉、横浜、高尾山といった観光地への鉄道のアクセスが良く、また高速道路を利用して富士山や関西方面へ移動しやすい立地にある
- 有名な観光資源はないが、地域の観光資源をめぐるガイドツアー参加者の満足度は高い
(資料出典：町田市観光コンベンション協会ガイドツアー参加者アンケート)
- 小野路エリアにおける「フットパス※」を活用した地域住民によるおもてなしが、来訪者に好評である
- 地域活動への意識は高いが、実際に参加している人は少ない
(資料出典：町田市市民意識調査(2010年度策定))
- まちへの愛着、誇りを持っている市民の割合が、近隣都市と比べ低い
(資料出典：町田市に関する調査報告書(2013年3月策定))

町田の主な観光資源

文化施設・観光施設	国際版画美術館、市民文学館ことばらんど、リス園、小野路宿里山交流館
歴史・伝統・文化・サブカルチャー	高ヶ坂石器時代遺跡、旧永井家住宅、絹の道、旧白洲邸武相荘、自由民権運動、古着、アニメ、ラーメン
自然・景観	町田薬師池公園四季彩の杜(薬師池、ぼたん園、ダリア園、)、野津田公園、芹ヶ谷公園、尾根緑道、小山田緑地、北部丘陵、鶴見川源流、堺川源流
イベント	町田さくらまつり、フェスタまちだ、町田時代祭り、キラリ☆まちだ祭、大賀ハス観蓮会、菊花展、町田天満宮例大祭
街のにぎわい	町田シバヒロ、仲見世商店街、原町田七福神、グランベリーモール
ホームタウンチーム	FC 町田ゼルビア、ASV ベスカドーラ町田、キヤノンイーグルス
人物	八木重吉、遠藤周作、白洲次郎、白洲正子、田河水泡、畦地梅太郎

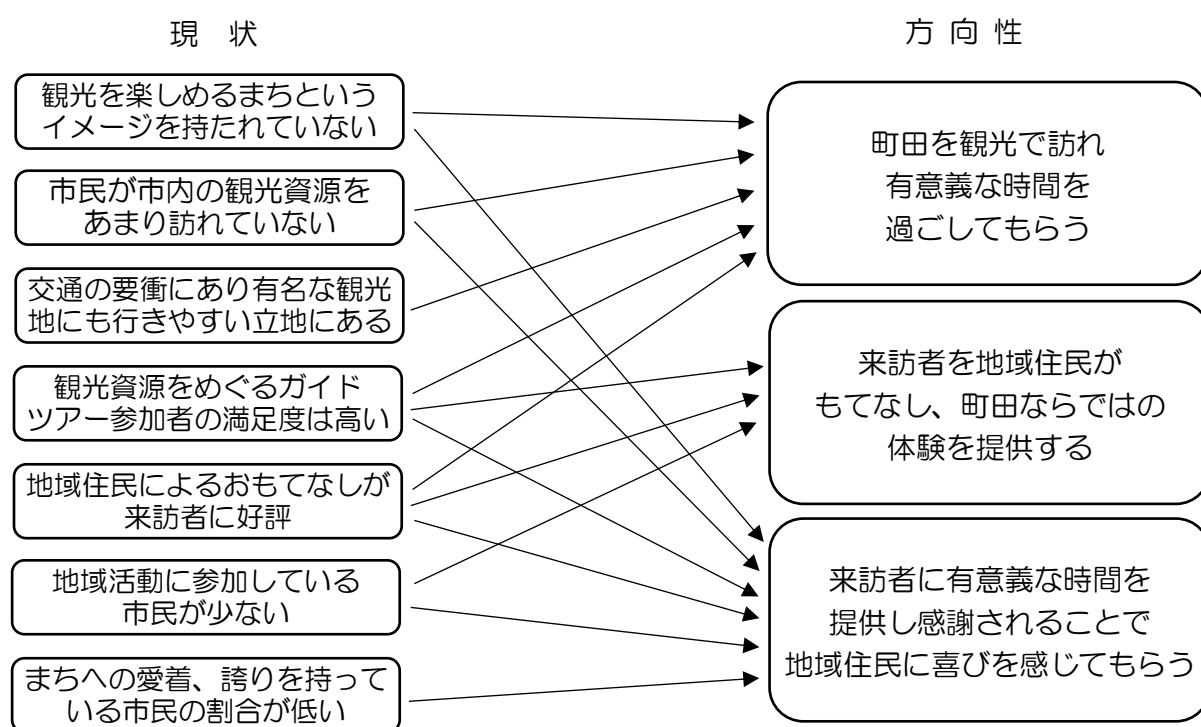
※フットパス

森林や田園地帯、古い町並みなど地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径(こみち)のことをいう。

3. 町田市の目指すべき「観光」の方向性について

町田市の「観光」を取り巻く現状を踏まえ、町田の目指すべき「観光」の方向性を以下のとおりとします。

- 来訪者に町田を観光することで有意義な時間を過ごしてもらう
- 来訪者に地域住民のもてなしによる町田ならではの体験を提供する
- 来訪者から感謝されることで、担い手である地域住民に喜びを感じてもらう



4. 町田市の「観光まちづくり」の将来像

町田市では、市民が主体となって観光とまちづくりの両面から自分の住む地域を見つめ直し、地域が持つ歴史、自然、文化などの観光資源を磨き、活用し、おもてなしを通じて町田ならではの体験を来訪者に提供する「観光まちづくり」を目指します。

この「観光まちづくり」を進めることにより、市民が市内観光を楽しむ機会や市外から観光目的で町田を何度も訪れる人を増やすことで、経済活性化、地域活性化を図ります。

これにより、地域住民にとっては地域に愛着を感じ住み続けたいくなるような、来訪者にとっては市民によるおもてなしに価値を感じ、何度も訪れたいくなるようなまちを実現します。

そこで、町田市の「観光まちづくり」の将来像を以下のとおりとします。

住んでよし、訪れてよし、体験交流都市まちだ

5. 町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために

町田市の「観光まちづくり」の将来像を実現するために必要となる視点を以下のとおりとします。

視点1 市内外への情報発信

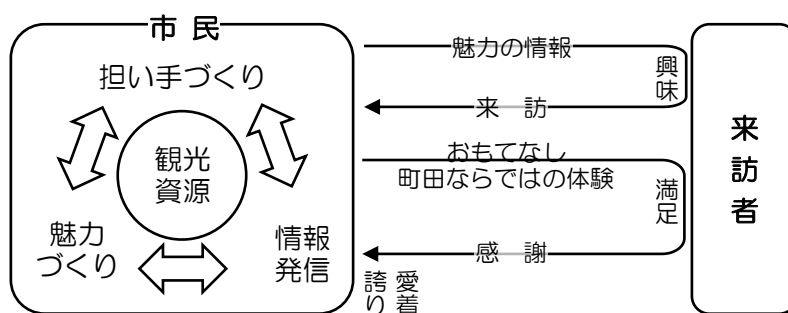
来訪者の増加につながるよう、町田ならではの観光資源の魅力を洗い出し、掘り起し、その魅力を市内外の人に的確に届けます

視点2 観光まちづくりの担い手と態勢（体制）づくり

市民全体で来訪者をおもてなしするような機運となるよう、観光まちづくりの担い手づくり、体制づくりを進めます

視点3 町田ならではの観光の魅力づくり

今ある観光資源を地域住民と共に磨きあげ、町田ならではの体験を提供し、何度も足を運びたいくなるような魅力ある資源にします



将来像実現までの流れのイメージ

6. 「観光まちづくり」の将来像実現のための段階

2015年3月に町田市未来づくり研究所が発行した提言書「まちだニューパラダイム」では、東京圏の人口も減少期に入っている2030年までに、町田市の都市の力を上げていくために必要な「行政運営」と「まちづくり」における新しい価値観を示しています。

本方針もこの2030年を目標年度とし、観光まちづくりによって地域活性化や経済活性化を図り、地域住民にとっては住み続けたいような、来訪者にとっては何度も訪れたいような、満足感が得られるまちを実現します。

この計画期間を概ね5年程度の前期・中期・後期の3つの段階に分け、各段階で進捗状況を検証し必要に応じて方針の見直しを行います。

各段階における目指すべき達成状態を以下のとおりとします。

将来像実現のための各段階における達成状態

	前 期 (概ね2021年度まで)	中 期 (概ね2026年度まで)	後 期 (2030年度まで)
視点1 市内外への情報発信	魅力発信の工夫により、多くの市民に町田の魅力が届いている	市民だけでなく市外の人にも町田の魅力が届いている	町田で観光を楽しんだ人自らがその体験を情報発信している
視点2 観光の担い手と態勢 (体制)づくり	来訪者をおもてなしする担い手が増えている	おもてなしする体制の中で世代交代が進んでいる	市民全体が来訪者をおもてなしする態勢になっている
視点3 町田ならではの観光 の魅力づくり	今ある資源の魅力の洗い出し、掘り起しができている	地域住民による説明を加え、資源の魅力がさらに引き出されている	地域の生活や文化も含めた資源が魅力となっている

7. 「観光まちづくり」を進めることによって期待される効果

「観光まちづくり」を進めることによって、次のような効果が期待できます。

- 来訪者が増えることにより、地域活性化や経済活性化が図れ、新たな雇用の創出も期待できる
- 地域活動に参加したい市民に活躍の場を提供できる
- 観光まちづくりの担い手が増えることにより、地域の歴史や文化を継承する素地ができる
- 来訪者に喜んでもらうことにより、市民が地域に誇りや愛着を持ち、住み続けたいと思えるようになる
- 市外からの来訪者が、町田市に住んでみたいと思うきっかけになる

町田市観光まちづくり基本方針

2017年〇月発行

発 行 者 町田市

〒194-8520

東京都町田市森野 2-2-22

編 集 経済観光部産業観光課

刊行物番号